

取扱説明書番号:50300130

日付:2010年11月19日

FixiForm

フィクシフォーム

取扱説明書



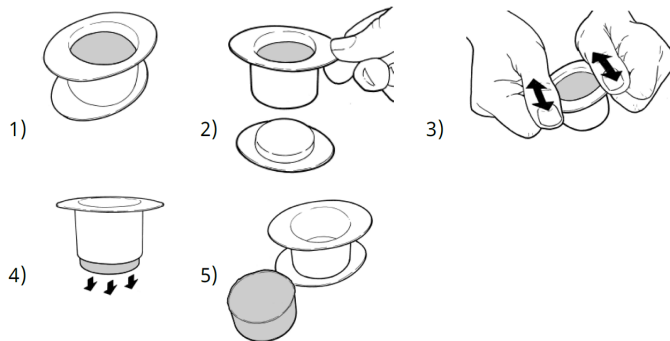
Pederstrupvej 84, DK-2750 Ballerup



取扱説明書

ご使用前に、フィクシフォームのシリンダーと蓋を組み立ててください。

- 1) 試料をフィクシフォームの中央に置き、埋込みカップに樹脂を注ぎます。上縁の下約3mmまで充填します。
- 2) 樹脂が完全に硬化したら、フィクシフォームの蓋を取り外します。
- 3) シリンダーの持ち手部分を数回回して埋込みを緩めます。埋込みが緩まない場合は、フィクシフォームのシリンダーの側面を指で押します。
- 4) フィクシフォームから埋込みを下方方向に押します（フィクシフォームはわずかに円錐形で、底部の直径の方が頂部よりわずかに大きくなっています）。
- 5) 残っている樹脂を取り除き、シリンダーと蓋を組み立てます。



メンテナンス

フィクシフォームは水と石鹼を使用して洗浄することができます。残った樹脂は、木製のヘラなどを使ってこそぎ取ってください（鋭利な道具を使うとシリンダーを傷つけるおそれがあります）。シリンダーと蓋を元通りに組み立てて保管してください（これにより最適なフィット感を維持します）。

フィクシフォームからの漏れ

フィクシフォームが高温になると、シリンダーが膨張して漏れが発生することがあります。元に戻すにはシリンダーを約1分間沸騰したお湯に入れ、そのまま室温で冷却します。これにより、シリンダーが元に戻り、再度蓋に密着するようになります。

ヒント

埋込みを取り外しづらい場合

一部の埋込み材料がフィクシフォームに固着してしまうことがあります。これを防ぐため、シリンダーと蓋を組み立てた後、埋込みカップの内側にストルアス製シリコンオイルを薄く塗ってください。

小さな試料の埋込み

とても小さな試料を埋め込む場合は、ストルアスの**固定クリップ**または**マルチクリップ**を使用してください。クリップが使えない場合は、ストルアスの**両面接着テープ**など両面テープで試料を保持することができます（「茶色い面」を蓋側に、「白い面」を試料側に向けて貼り付けます）。

重要

急速硬化型の接着剤は極力使用しないでください。硬化時に発生する熱でフタが破損するおそれがあります。急速硬化型の接着剤を使用しなければならない場合、試料を薄いプラスチックフィルムに接着してから埋込んでください。

硬化時の温度管理

硬化中の温度管理にはドライボックスを使用します。ドライボックスを「no heat」で使用すると、空流で硬化過程で発生する熱が除去され、最良の埋込み結果が得られます。ドライボックスを「with heat」で使用すると、空流で硬化中の温度が一定に保持され、スペシフィックス-40用の温度制御オープンとしても使用することができます。

大きいフィクシフォーム

試料に対して大きいフィクシフォームを使用すると、必要な樹脂の量が多くなり、硬化時に過剰な熱が発生することがあります。非常に高い温度になると、樹脂が過度に収縮したり、気泡が発生し、フィクシフォーム本体の変形につながるおそれがあります。

発熱が大きい場合は、次のような「涼しい場所」に置いて、熱を逃がしてください：

- 常温の風が当たる場所（ドライボックス）
- 冷水槽
- 冷蔵庫の中

層に分けて（約15 mmずつ）埋込みます。1層目がしっかり硬化してから、次の層を注ぎます。